

# 小学校国語科 「言語についての知識」に関する練習問題

先生方へ

これまでの徳島県学カステップアップテストでは、指示語や接続語の理解をはじめ言語についての知識を問う問題が出題されています。その一部をまとめました。言語についての知識の定着を図る練習問題として、「活用ください」。

取り上げられている「言語についての知識」は次のようになっています。

問題番号		出題学年
1	指示語 修飾語 主語・述語 引用 主語・述語の照応	5年
2	接続語 指示語 漢字の部首 主語・述語 修飾語	5年
3	漢字の部首 語の照応 国語辞典の調べ方 主語・述語 修飾語 推敲	5年
4	指示語 主語・述語の照応 国語辞典の活用 段落	5年
5	指示語 国語辞典の活用 主語・述語の照応 中心語句 段落	5年
6	主語・述語の照応 国語辞典の活用 指示語 段落	5年
7	段落 接続語 慣用句 主語・述語の照応	5年
8	主語・述語 段落 一文を二文にわけると 国語辞典の活用	5年
9	漢字の読み書き 漢字の部首 作文の推敲	4年
10	漢字の読み書き 漢字の送り仮名 国語辞典の活用 主語	4年
11	作文の推敲	4年
12	指示語 段落相互の関係	4年



※ 9・10については、3年生の使用も可能です。

一 次の(1)・(2)の文の——部の言葉は、何を指していますか。あとの1から4までの中から一つえらんで、その番号に○をつけましょう。

(1) 公園に、白いひげを生やしたおじいさんがいたら、それがぼくのおじいさんです。

- 1 公園      2 白いひげ      3 おじいさん      4 白いひげを生やしたおじいさん

(2) コムギは、多くは秋にたねをまき、はたけで育てます。コムギはもともと、雨があまりふらない、すずしい土地で育つ植物で、日が長くなると実をつけるせいしつがあります。はたけで育てて、日が長くなる夏のはじめにしゅうかくするのは、そのためです。

- 1 秋にたねをまき、はたけで育てる      2 雨があまりふらない、すずしい土地で育つ  
3 日が長くなると実をつけるせいしつがある  
4 日が長くなる夏のはじめにしゅうかくする

二 次の文の「たくさん」は、どの言葉をくわしくしていますか。次のアからオまでの中から一つえらんで、その記号に○をつけましょう。

- ア 黄色い、      イ 小さな      ウ かぶの      エ 花が      オ さきました。  
黄色い、      小さな      かぶの      花が      さきました。

三 次の文の主語はどれですか。次の1から5までの中から一つえらんで、その番号に○をつけましょう。

- 1 黄色い、      2 小さな      3 かぶの      4 花が      5 さきました。

四 川田さんは、徳島とくしまけん県の「おせつたい」について感じたことを作文に書きました。次は、その下書きの一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

徳島には、おへんろさんたちをあたたかくおむかえする地元ならではのおもてなし、おせつたいという文化があり、今も受けつがれている。徳島のよいところは、おせつたいという伝とうが今も残っているというところがよいところだ。徳島のよさをアピールする宣言文せんげんの中に、おへんろは、歩く人だけで成り立つものではない。道々でそれを助ける人があって、はじめて可能かのうになるという言葉があり、なるほどと思った。

(1) 川田さんは、——部の文を読み直して、「書き方がおかしいな。」と感じました。「徳島のよいところは、」につづけて、正しく直した文を書きましょう。

徳島のよいところは、

(2) 川田さんが書いた下書きの一部には、他の人が書いた文章を引用したところがあります。引用したところを下書きの中から見つけ、「」を一組つけましょう。

一 次の(1)・(2)の文の( )に入る言葉を、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

(1) 運動をすると、あせをたくさんかく。( )、しっかりと水分をとらなければならない。

- 1 しかし                      2 そのうえ                      3 だから                      4 それとも

(2) わたしは、クッキーをつくるのはかんたんだと思っていた。( )、やってみるとむずかしかった。

- 1 けれども                      2 なぜなら                      3 あるいは                      4 もし

二 次の(1)・(2)の文の――部の言葉は、何を指していますか。あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

(1) わたしたちの県では、すだちやれんこん、さつまいもがたくさんさいばいされています。これらは、県外にも出荷され、徳島県の特産物としてよく知られています。

- 1 特産物                      2 すだちやれんこん                      3 さつまいも                      4 すだちやれんこん、さつまいも

(2) 図書室は、学校の中でわたしがもっとも気に入っている場所です。それで、一日一回は図書室に行くことにしています。本が好きなのは、そうすることで、たくさんの本に囲まれた、しあわせな気分を味わうことができます。

- 1 図書室がもっとも気に入っていること                      2 一日一回は図書室に行くこと  
3 本が好きであること                      4 しあわせな気分を味わうこと

三 「間」という漢字の部首名を、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 しんによう                      2 もんがまえ                      3 まだれ                      4 ひへん

四 次の文の「わたしは」の述語はどれですか。あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- わたしは、                      1 静かな                      2 海を                      3 じっと                      4 見つめた。

五 次の文の「広い」は、どの言葉をくわしくしていますか。あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 こいのぼりは、                      2 広い                      3 空を                      4 ゆったりと                      5 泳いでいる。

- 一 「話」という漢字の部首名を次の中から一つ選んで、その記号に○をつけましょう。
- ア しんによう                      イ ごんべん                      ウ まだれ                      エ うかんむり
- 二 次の(1)・(2)の文の(    )に入るもっともふさわしい言葉を  の中からそれぞれ選んで、その記号を書きましよう。

- (1) (    ) 晴れていたなら、公園に行きましよう。
- (2) 最後まで (    ) あきらめません。

ア けっして    イ なぜ    ウ たとえ    エ もし

- 三 国語辞典に出てくる順番に、言葉が正しくならんでいるものを、次の中から一つ選んで、その記号に○をつけましよう。

- ア あひる いぬ いけ さる ざる  
 イ あひる いぬ いけ ざる さる  
 ウ あひる いけ いぬ さる ざる  
 エ あひる いけ いぬ ざる さる

- 四 次の文の「花が」の述語はどれですか。一つ選んで、その記号に○をつけましよう。

花が  広い  野原に  たくさん  さいている。

- 五 次の文の「白い」は、どの言葉をくわしくしていますか。一つ選んでその記号に○をつけましよう。
- きのう、 白い  自動車が  ゆっくりと  走っていた。

- 六 森さんは、ねこのひげについて作文を書くことにしました。下書きをして読み直してみると、書き直したほうがよいところが見つかりました。どのように書き直したらよいかを説明したものととしてふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましよう。

【作文の下書き】

※文のはじめにある①から⑤の数字は、文の番号を表しています。

①ねこは、口の左右に、長いひげがはえています。②ひげは、レーダーと言っていくらいの大切な役わりをはたしています。③くわしく調べてみると、ねこのひげのねもとは、大きな血管があります。④そのため、ひげの先が何かにふれるだけで、びんかんに感じとることができる。⑤また、においをはこんでくる風の方向をキャッチすることもできます。

- 1 ①の文は会話文なので、文全体を「    」に入れるほうがよい。
- 2 ②と③の文をつなげる言葉として、「しかし」を③の文につけるほうがよい。
- 3 ④の文末の「できます。」を「できます。」にするほうがよい。
- 4 ⑤の文に、「わたしは」という主語を書きたすほうがよい。

竹内さんは、朝の会で「うれしかったこと」について、スピーチをすることになりました。次は、そのスピーチの下書きです。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

わたしの家で、きのう、金魚の赤ちゃんが生まれました。

①この前、わたしが水そうをのぞくと、水草にたまごがいっぱいいていました。そこで、たまごをバケツに移しかえました。②わたしは、赤ちゃんがいつ生まれるのか楽しみになり、毎日バケツの中をのぞいていました。しかし、二日たつても、何も変わりませんでした。③もう、生まれないのではないかと、不安になりました。でも、わたしは、ぜったいに生まれてほしいと願っていました。④きのうの朝、いつものようにバケツをのぞいてみると、それがかなってしまいました。⑤バケツの中に、小さな小さな赤ちゃんがいっぱいいました。親とちがうところは、体の色が赤ではなくすきとおっているとところがちがいます。金魚を見ていると、無事に生まれてくれた喜びがわいてきました。

まだ、自分でえさを食べることはできませんが、えさを食べて大きく成長してほしいと思います。せつかく生まれた命なのだから、この金魚の赤ちゃんを大切に育てようと思いました。

一 「それ」は、何をさしていますか。あとの1から4までの中から、一つ選んでその番号に○をつけましょう。

- 1 たまごを見つけた喜び  
2 生まれてほしいという願い  
3 バケツの中をのぞきたいという思い  
4 大きく成長してほしいという希望

二 竹内さんは、——部を読み直して、「書き方がおかしい」と感じました。「親とちがうところは、」に続けて、正しく直した文を書きましょう。

親とちがうところは、

三 「喜びがわいてきました」とありますが、「喜びがわい」の部分は、「喜びがわく」が変化したものです。この「わく」は、【国語辞典で調べた内容】の1から4のどの意味で使われていますか。その番号を一つ選んで○をつけましょう。

【国語辞典で調べた内容】

【わく】（動）	1	2	3	4
1	水が熱せられて熱くなる。	大勢が夢中になってさわぐ。	地下水などが地中から出る。	ある考えや気持ちが生まれる。
例	お湯がわく。	場内がわく。	温泉がわく。	希望がわく。

四 竹内さんが書いた下書きの文章の——の部分で、二つの段落に分けたいと思います。①から⑤のどこで分ければよいでしょうか。あとの1から4までの中から、一つ選んでその番号に○をつけましょう。

- 1 ①と ②③④⑤  
2 ①②と ③④⑤  
3 ①②③と ④⑤  
4 ①②③④と ⑤

川田さんは、年がじょうについて感じたことを作文に書きました。次は、その下書きの一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

お正月にとどいた年がじょうを見ると、筆で書いたものや、フェルトペンで書いたものがある。なかには、パソコンで作ったものもあった。

①筆で書かれた年がじょうは、白と黒で表現げんされていて、きりつとしたなかに、あたたかみも感じられる。②書くための準備じゅんびには少し時間がかかるが、それをそれを使って年がじょうを書くことが日本の伝統を味わうことになるのだ。③フェルトペンで書かれた年がじょうは、色さい豊ゆたかである。④目的に合わせて、色や太さを工夫したり、イラストを入れたりするので、一まいを仕上げるのにかなりのアがかかることもある。⑤あざやかな色を使って書かれた一まいからは、楽しそうに書いている様子が伝わってくる。

パソコンで作った年がじょうは、すっきりとして読みやすく、写真を入れたものもある。パソコンのよいところは、絵や写真を入れた年がじょうが手軽にできることがよいところだ。また、たくさん作ることができるので便利だ。

一 「それ」は、何をさしていますか。あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 万年筆      2 フェルトペン      3 パソコン      4 筆

二 「伝統を味わう」の「味わう」は、国語辞典の1から3のどの意味で使われていますか。その番号に○をつけましょう。

## 【国語辞典】

【味わう】（動）1 よい味をたのしむ。 例 ごちそうを味わう。

2 ものごとのおもしろみを感じ取って、たのしむ。 例 詩を味わう。

3 喜びや苦しみを感じ取る。 例 悲しみを味わう。

三 川田さんは、——の文を読み直して、「書き方がおかしいな。」と感じました。「パソコンのよいところは、」に続けて、正しく直した文を書きましょう。

パソコンのよいところは、

四 ア に入る適切な言葉を、文中からさがして書きましょう。

五 川田さんが書いた①から⑤までの文を、二つの段落だんに分けたいと思います。どのように分けられよいか。あとの1から4までの中から、一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 ① と      ② ③ ④ ⑤      2 ① ② と      ③ ④ ⑤
- 3 ① ② ③ と      ④ ⑤      4 ① ② ③ ④ と      ⑤

山田さんは、徳島の方言について調べたことを発表します。次は、その下書きの一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

### 3 徳島の方言の特ちょう

徳島の方言の特ちょうは、相手にやわらかく聞こえることが、徳島の方言の特ちょうです。  
 ①「ここでよう遊んだなあ。(ここでよく遊んだね。」「おもっしょいものがようけあるもんなあ。(おもしろいものがたくさんあるからね。)」のような会話をよく耳にします。②「くなあ」と相手の同意を求めようと話しています。③このように話を進めているので、やわらかい表現になっているのです。④また、やわらかいひびきをもった古い言葉が残っていることも、徳島の方言がやわらかく聞こえるもう一つの理由です。⑤ある地域では、「これ、ちいと、おますわろ。(これを少しさしあげます。」「できたら、おますぞよ。(できたらさしあげます。)」というように使われています。⑥「おます」は、昔は、「さしあげます」という意味で使われていたそうです。⑦やわらかいひびきの古い言葉が、そのままの意味で使われているのです。

※( )は、方言を共通語に直したものです。  
 ※文のはじめにある①から⑦の数字は、文の番号を表しています。

一 山田さんは、——の文を読み直して、「書き方がおかしいな。」と感じました。「徳島の方言の特ちょうは、」に続けて、正しく直した文を書きましょう。

徳島の方言の特ちょうは、

二 「求める」を国語辞典で調べると、次のようになっていました。「同意を求める」の「求める」は1から3のどの意味で使われていますか。その番号に○をつけましょう。

#### 【国語辞典】

もとめる【求める】(動)

- |   |               |   |         |
|---|---------------|---|---------|
| 1 | 手に入れようとしてさがす。 | 例 | 仕事を求める。 |
| 2 | 買う。           | 例 | 本を求める。  |
| 3 | のぞむ。たのむ。      | 例 | 助けを求める。 |

三 「このように」は、何を指していますか。あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1 | 相手を気づかいながら話を進めるように      |
| 2 | 古い言葉が、そのままの意味で使われているように |
| 3 | 文末がやわらかい表現になるように        |
| 4 | 「くなあ」と、相手の同意を求めるように     |

四 山田さんが書いた①から⑦までの文を、二つの段落に分けたいと思います。どのように分ければよいでしょうか。あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- |   |       |       |   |        |      |
|---|-------|-------|---|--------|------|
| 1 | ①②と   | ③④⑤⑥⑦ | 2 | ①②③と   | ④⑤⑥⑦ |
| 3 | ①②③④と | ⑤⑥⑦   | 4 | ①②③④⑤と | ⑥⑦   |

竹田さんは、国語の時間に慣用句について調べたことを発表することになりました。次は、その【発表原稿の下書き】です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

## 【発表原稿の下書き】

みなさん、「実を結ぶ」という言葉を聞いたことがありますか。

①この前、わたしが、母といっしょにオリンピックについて書いてある新聞を読んでいたときのことです。②金メダルをとった選手の記事を見て、母が、

「この選手は、今までの苦労が実を結んでよかったね。」

と言いました。しかし、わたしは「実を結ぶ」という意味がわからなかったので、母にたずねてみました。③すると、母が、「実を結ぶ」という言葉は、「よい結果を得る」という意味だと教えてくれました。④このような言葉を、慣用句と言います。⑤慣用句とは、二つ以上の言葉が組み合わせあって、特別な意味を表すようになった言葉です。

A、どのような慣用句があるか国語辞典で調べてみると、「心」という言葉を使った慣用句がありました。慣用句は、様子などをわかりやすく伝えることができるので、昔から生活の中で使われてきました。慣用句は、もとの言葉の意味とちがっているので、慣用句を使うときに大切なことは、その意味を正しく理解して使うことが大切だと思いました。

一 竹田さんが書いた【発表原稿の下書き】の文章のの部分、二つの段落に分けたいと思います。①から⑤をどのように分ければよいでしょうか。あとの1から4までのの中から、一つ選んでその番号に○をつけましょう。

- |   |      |      |   |       |     |
|---|------|------|---|-------|-----|
| 1 | ①と   | ②③④⑤ | 2 | ①②と   | ③④⑤ |
| 3 | ①②③と | ④⑤   | 4 | ①②③④と | ⑤   |

二 Aに入るふさわしいつなぎ言葉を、あとの1から4までのの中から、一つ選んでその番号に○をつけましょう。

- |   |     |   |      |   |      |   |     |
|---|-----|---|------|---|------|---|-----|
| 1 | そこで | 2 | けれども | 3 | すなわち | 4 | つまり |
|---|-----|---|------|---|------|---|-----|

三 竹田さんは、部の『心』という言葉を使った慣用句の例文を考えました。【竹田さんが考えた例文】のに入るもつともふさわしい慣用句を、【国語辞典で調べた内容】のAからEまでのの中から、一つ選んでその記号に○をつけましょう。

## 【竹田さんが考えた例文】

本を読んでいると、主人公が妹をはげます場面で、強くわたしの言葉があった。

## 【国語辞典で調べた内容】

ア	心を配る	意味	あれこれと気を使う。
イ	心を通わせる	意味	気持ちをはかり合う。
ウ	心をおどらせる	意味	どきどきわくわくする。
エ	心を打つ	意味	深く感動させる。

四 竹田さんは、部を読み直して、「書き方がおかしい」と感じました。「慣用句を使うときに大切なことは、」に続けて、正しく直した文を書きましょう。

慣用句を使うときに大切なことは、。



図書委員会の横田さんは、委員会からのお知らせを全校児童によりかけることになりました。次は、その【お知らせの下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

## 【お知らせの下書き】

図書委員会では、みなさんにいろいろな本を読んで読書の楽しさを知ってもらうために、二つのことを計画しました。

一つは、図書委員による読み聞かせです。毎週水曜日の昼休みに、図書室で図書委員が読み聞かせを行います。①第一回は、新美南吉作「手ぶくろを買いに」という本です。心温まるお話なので、ぜひ聞きに来てください。②もう一つは、読書ゆうびんです。図書委員会が先月に行ったアンケートでは、「おもしろい本を、もっとしようかいしてほしい。」という意見がありました。読書ゆうびんは、友達におすすめの本をしようかいするものです。③一人一人が相手を決めて、おすすめの本やその理由などをカードに書きます。それを図書委員が、ゆうびんのようにとどけます。この方法では、本をしようかいする人は、相手にあった本を選ぶことができるし、カードをもらった人は、うれしくなって本を読みたくなると思います。④また、読書ゆうびんは「読みたい本がなかなか見つからない。」となやんでいる人にも参考になると思っています。

読み聞かせや読書ゆうびんで、みなさんの心にとまる本がきつと見つかるでしょう。

一 次は、【お知らせの下書き】の  の中の文です。次の文の主語に当たるものを、  
部 1 から 5 までのの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

毎週水曜日の 1 昼休みに、 2 図書室で 3 図書委員が 4 読み聞かせを 5 行います。

二 横田さんが書いた【お知らせの下書き】の文章の  の部分を、二つの段落に分けたいと思います。①から④のどの場所で分ければよいでしょうか。次の 1 から 4 までのの中から一つ選んで、その番号に○をつけましょう。

- 1 ①の場所      2 ②の場所      3 ③の場所      4 ④の場所

三 横田さんは、 部を読み直したあと、二つの文に分けて書き直すことにしました。つなぎ言葉には、「そして、」を使い、書き直した一つ目の文の終わりの五文字と、二つ目の文の「そして、」に続く五文字を書きましよう。

。そして、

四  部「心にとまる」とありますが、この「とまる」は、【国語辞典で調べた内容】の 1 から 4 のどの意味で使われていますか。その番号を一つ選んで書きましよう。

## 【国語辞典で調べた内容】

【とまる】（動） 1 動かなくなる。

2 印象が消えずに残る。

3 宿などで一夜を過ごす。

4 そこで終わりになる。

例 時計がとまる。

例 目にとまる。

例 おじさんの家にとまる。

例 いたみがとまる。

一 次の(1)・(2)の文の―部の漢字の読みを、ひらがなでいいねいに書きましょう。

(1) ボールが転がる。

(1) がる

(2) 筆記用具をわすれないようにしよう。

(2)

二 次の(1)・(2)の文の―部のひらがなを、漢字でいいねいに書きましょう。

(1) 赤組がかつ。

(1)

つ

(2) 先生にそうだんする。

(2)

三 次の(1)・(2)の漢字の部首名を、の中の1から5までの中からそれぞれ一つずつえらび、( )の中に、その番号を書きましよう。

(1) 係 ( ) (2) 顔 ( )

1 おおがい

2 さんずい

3 きへん

4 ごんべん

5 にんべん

〈以上、平成30年度春徳島県学力ステップアップテストより作成〉

四 大西さんは、「昔の道具ひみつ調べ」で「せんたく板」について書いた下書きを、読み返して、書き直しました。どのようなことに気をつけて書き直したのでしょうか。あとの1から5までの中からあてはまるものを二つえらび、その番号に○をつけましよう。

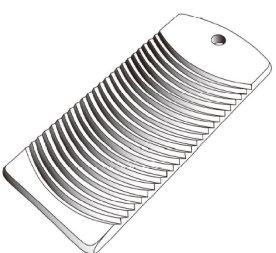
【下書き】

○ せんたく板  
せんたくをするときに使う道具で、長方形の木の板で、表面にぎざぎざのみぞがあります。水にぬらしたせんたく物を、みぞの上でこしごしこすって、よごれをおとします。せんたく物がたくさんあると、一つずつ手であらうので時間がかかりますし、冬だと水がつめたいから、たいへんな仕事だと思いました。

【書き直した文章】

○ せんたく板  
せんたくをするときに使う道具です。長方形の木の板で、表面にぎざぎざのみぞがあります。水にぬらしたせんたく物を、みぞの上でこしごしこすって、よごれをおとします。せんたく物がたくさんあると、一つずつ手であらうので時間がかかります。それに、冬だと水がつめたくなります。たいへんな仕事だと思いました。

- 1 文のおしまいをよびかけるような表現にして書いた。
- 2 意味がよくわかるように、短い文に分けて書いた。
- 3 使い方がよくわかるように、番号を使って書いた。
- 4 内容のまとめりに、だんらしくに分けて書いた。
- 5 様子がよくわかるように、たとえを使って書いた。



一 次の(1)・(2)の文の―部の漢字をひらがなに直して書きましょう。

(1) 話し合いを重ねる。

(2) 屋外に出る。

(1)

ねる

(2)

二 次の(1)・(2)の文の―部のひらがなを漢字に直して書きましょう。

(1) 荷物をはこぶ。

(2) 山里のりよかんにとまる。

(1)

ぶ

(2)

三 次の(1)・(2)の言葉を漢字を使って書くとき、正しく送りなががつけられているものを、それぞれあとの1から3までの中から一つえらび、その番号に○をつけましょう。

(1) こまかい  
 1 細まかい  
 2 細かい  
 3 細い

(2) うつくしい  
 1 美しくい  
 2 美しい  
 3 美い

四 次の四つの言葉を国語辞典で調べます。国語辞典でさいしょに出てくる言葉はどの言葉でしょう。あとの1から4までの中から一つえらんで、その番号に○をつけましょう。

1 きつつき  
 2 キック  
 3 きっかけ  
 4 気づく

五 国語辞典では、形が変わる言葉は、次の【れい】のように言い切りの形で出ています。

【れい】まよってしま<sub>う</sub> ↓ (国語辞典で調べるとき)

まよ<sub>う</sub>

「花たばをかかえたピアニスト」の中の―部の言葉について調べるとき、どのような形にして調べるとよいですか。ひらがな四字で書きましょう。


六 次の文の主語を、アからオまでの中から一つえらんで、その記号に○をつけましょう。

ア わたしの  
 イ 家に  
 ウ 友だちが  
 エ あそびに  
 オ きました。

林さんの学級では、「好きな教科について」を書くことにしました。次は、林さんが最初に書いた【下書き】と【書き直した文章】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

## 【下書き】

わたしの好きな教科は生活と体育です。好きなわけは、虫とりで虫を探したり、見つけたりするのが楽しいからです。かけっこやリレーで走るのが楽しいからです。

## 【書き直した文章】

わたしの好きな教科について書きます。一つ目は、生活です。好きなわけは、虫とりで虫を探したり、見つけたりするのが楽しいからです。二つ目は、体育です。かけっこやリレーで走るのが楽しいからです。

林さんは、どのようなことに気をつけて書き直したのでしょうか。

二 「おひつ」について書いた【下書き】を、書き直しました。どのようなことに気をつけて書き直したのでしょうか。あとの1から6までの中からあてはまるものをすべて選び、その番号に○をつけましょう。

## 【下書き】

○おひつ

ごはんを食べるときに使う道具で、多くは木でできていて、ごはんのかんそうをふせいで、ふっくらやわらかなじょうたいでほぞんできますし、今でも人気があります。たき上がったごはんをかまからうつし入れてほぞんしたり、食たくに運んだりします。いろいろなざいりようで作られたおひつを見てみたいと思いました。

## 【書き直した文章】

○おひつ

ごはんを食べるときに使う道具です。多くは木でできています。ごはんのかんそうをふせいで、ふっくらやわらかなじょうたいでほぞんできます。今でも人気があります。たき上がったごはんをかまからうつし入れてほぞんしたり、食たくに運んだりします。安藤信子「おひつのふしぎ」という本を調べてみると、「いろいろなざいりようで作られたおひつがある」とあり、見てみたいと思いました。

1 文のおわりをよびかけるような表現にして書いた。

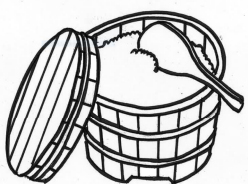
2 意味がよくわかるように、短い文に分けて書いた。

3 使い方がよくわかるように、番号を使って書いた。

4 様子がよくわかるように、たとえを使って書いた。

5 内よりのまとまりごとにだんらくに分けて書いた。

6 文章のないようをおぎなうために、引用して書いた。



一 次の□の中の文章の「そこ」とは、何をさししめしていますか。もともともふさわしいものを、あとの1から4までの中から一つえらんで、その番号に○をつけましょう。

わたしは、駅からバスに乗り、キャンプに行きました。山道をぬけると、湖の見える広場に着きました。そこから見た夕日は、見たことがないくらい美しいものでした。「ずっと見ていたい。」、こんな気持ちになったのははじめてでした。

- 1 駅  
2 山道  
3 湖  
4 広場

二 【しりょうの一部】は、「イチゴジャムの作り方」について書いたものです。それぞれ□に、①から③までのいずれかのだん落が入ります。どの順番に入れるとよいでしょう。あとの1から6までの組み合わせの中からもつともふさわしいものを一つえらんで、その番号に○をつけましょう。

## 【しりょうの一部】

わたしは、おばあさんにイチゴジャムの作り方を教えてもらいました。その作り方を説明します。

次に、おなべにイチゴを入れ、さとうとレモンじるをふりかけて一時間くらいおきます。

そして、あついうちにびんに入れてふたをします。少し冷めたら、れいぞうこに入れます。

① すると、さとうがとけてイチゴから水分が出てきます。

② それから、火にかけて、中火でことことにます。三十分くらいにて、あざやかな赤色になって、とろみがついたらできあがりです。

③ はじめに、イチゴのへたを取って、水であらいます。

- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③ | ③ | ② | ② | ① | ① |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| ② | ① | ③ | ① | ③ | ② |
| ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| ① | ② | ① | ③ | ② | ③ |

1

- 一 (1) 4 (2) 3 二 オ 三 4

四 (1) (徳島のよいところは、) おせたいという伝とうが今も残っているところだ。  
 (2) 「おへんろは、歩く人だけで成り立つものではない。道々でそれを助ける人があ  
 って、はじめて可能になる」

2

- 一 (1) 3 (2) 1 二 (1) 4 (2) 2 三 2 四 4 五 2

3

- 一 イ 二 (1) エ (2) ア 三 ウ 四 エ 五 イ 六 3

4

- 一 2 二 (親とちがうところは) 体の色が赤ではなくすきとおっているところだ。

- 三 4 四 3

5

- 一 4 二 2

三 (パソコンのよいところは、) 絵や写真を入れた年がじょうが手軽にできることだ。  
 四 時間 五 2

6

- 一 (徳島の方言の持ちようは、) 相手にやわらかく聞こえることです。 二 3

- 三 4 四 2

7

- 一 3 二 1 三 エ 四 (慣用句を使うときに大切なことは、) その

意味を正しく理解して使うことです。

8

- 一 3 二 2 三 ができます。(そして、) カードをも 四 2

9

- 一 (1) ころ(がる) (2) ひっき 二 (1) 勝(つ) (2) 相談

- 三 (1) 5 (2) 1 四 2・4

10

- 一 (1) かさ(ねる) (2) おくがい 二 (1) 運(ぶ) (2) 旅館

- 三 (1) 2 (2) 2 四 3

- 五 かかえる 六 ウ

11

- 一 内容のまとめりに整理して書いた。 二 2・5・6

12

- 一 4 二 5